

センエイフローアー施工ポイント

施工工事店様へ

センエイフローアー使用上のご注意

お施主様へ



SEN-EI 株式会社 **センエイ**

<http://www.senei.co.jp>
info@senei.co.jp

センエイ

検索 



ISO9001:2000 認証取得

本社

〒596-0011 大阪府岸和田市木材町15-4
TEL072-436-5769 FAX072-436-5759

天然木床材

呼吸する“ゆらぎ”の空間

de niro

dedicating natural inspire to your room

JAS認定工場

岸和田工場 JPIC-PW81

〒596-0011 大阪府岸和田市木材町15-4
TEL072-436-5769 FAX072-436-5759

◆ 積層部門 ◆ 塗装部門

根太張用

施工工事店様へ

センエイフロアーの施工ポイント

この施工ポイントに記載されていない方法で施工され、それが原因で不具合が生じた場合は、補償しかねますのでご注意ください。

施工上のご注意

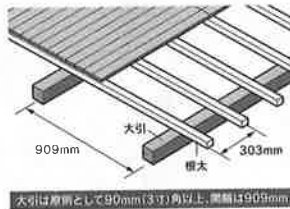
- この製品は屋内用です。屋外及び浴室内部など頻繁に水分と接するところには使用しないで下さい。また、土足による使用はお止め下さい。
- 色・柄や仕上がりにおきまして、施工後は補償しかねますのでご了承下さい。
- 下地材、床材の水濡れにご注意下さい。
- 製品の保管は壁などへの立てかけはせず、水平に保管してください。
*施工前に開梱し、開梱後は直ぐに施工してください。
- 商品の切断時は正面側から良く切れる刃物を用いてください。
- 木質製品ですので虫（ヒラタクイムシ）による侵食で小さな穴があいたり、へこんだり、割れたりすることがあります。
- コンクリート下地（直接施工、転ばし根太施工）への施工は出来ません。
- 床暖房のご使用に関し、不具合が生じた場合床暖房メーカーもしくは弊社スタッフへお尋ねください。

一般施工要領

1. 下地組み

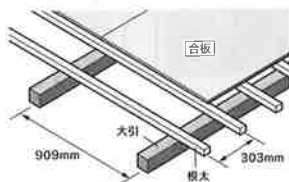
〈一般的な根太組み下地の場合〉

- ① 大引と根太の寸法が図のようになるようにしてください。
- ② 大引と根太は乾燥材をご使用下さい
大引、根太………含水率 15%以下
*高含水の場合施工後踏み鳴りや突き上げ、床材変色等の原因となります。
- ③ 根太組した面に段差ができていないか確認してください。
(段差があると踏み鳴り等の不具合が発生する場合がございます。) 段違いを防ぐため根太は両面プレーナーをかけてください。
- ④ 大引と根太はウレタン系または酢ビ系接着剤を塗布し、スクリュー釘やねじ等で沈め打ちして固定してください。
⑤ **重貨物を置く場合は根太本数を密にするか、合板を捨て張りするなどして、下地を補強してください。**



〈合板を捨て張りする下地の場合〉

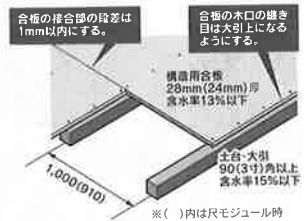
- ① 大引と根太、合板の寸法が図のようになるように施工してください。
- ② 大引、根太、合板は乾燥材をご使用下さい。
大引、根太………含水率 15%以下
合板………含水率 13%以下
*高含水の場合、施工後踏み鳴りや突き上げ、床材変色等の原因となります。
- ③ 根太組した面に段差ができていないか確認してください。(段差があると踏み鳴り等の不具合が発生する場合がございます。) 段違いを防ぐため根太は両面プレーナーをかけてください。



- ④ 合板の接合部の段差は 1mm 以内にしてください。
- ⑤ 大引、根太および合板はウレタン系または酢ビ系接着剤を塗布しスクリュー釘やねじ等で沈め打ちして固定してください。
- ⑥ **重貨物を置く場合は根太本数を密にするなどして、下地を補強してください。**

〈根太レス工法の場合〉

- ① 土台、大引、合板の寸法が図のようになるようにしてください。
- ② 土台、大引、合板は乾燥材をお使いください。
- ③ 土台、大引を組んだ面に段差ができていないか確認してください。(段差があると踏み鳴り等の不具合が発生する場合がございます。) 段違いを防ぐため根太は両面プレーナーをかけてください。
- ④ 合板の接合部の段差は 1mm 以内にしてください。
- ⑤ 大引、根太および合板はウレタン系または酢ビ系接着剤を塗布しスクリュー釘やねじ等で沈め打ちして固定してください。
- ⑥ **重貨物を置く場合は根太本数を密にするなどして、下地を補強してください。**
大引………含水率 15%以下
合板………含水率 13%以下
*高含水の場合、施工後踏み鳴りや突き上げ、床材変色等の原因となります。



2. 仮並べ、張り込み

- ① 天然木ですので、1枚1枚色柄が違います。美しく仕上げるために施工前に全部仮並べて割り付け、色柄のバランスを確認の上、施工してください。
- ② サネ方向を確認の上張り込んでください。
- ③ 必ず根太と床材の長手方向が直交するように張り込んでいってください。(合板下地の場合も、その下の根太に対して床材の長手方向が直交するように張り込んでいってください。) また、短手側方向の継ぎ目は根太上に来るようにしてください。
根太レス工法の場合、土台、大引と床材の長辺方向が直交するように張り込んでいってください。
- ④ 下地合板の継ぎ目と床材の継ぎ目が重ならないように張り込んでいってください。
- ⑤ 当て木を使用し、表面側垂直部をたたいたり、角に物を当てないように注意してください。



- ⑥ 床材のデザイン性を生かしたり、突き上げを防ぐために、リャンこ張りをお勧めします。



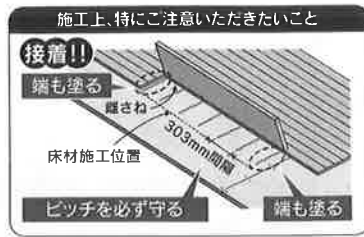
3. 下地への固定

1) 接着

① 裏面の接着

踏み鳴り、浮き上がりを防ぐために、根太にウレタン系または酢ビ系接着剤を塗布して、床材の裏面と接着してください。

(合板下地の場合は、下地の根太位置に塗布して接着してください。根太レス工法の場合、303mm 間隔で接着剤を塗布してください。)



② サネ部の接着

雄サネ部の全長に接着剤を塗布して接着してください。

④継ぎ目からはみ出したり表面に浮き出した接着剤は湿った布ですぐに除去してください。

⑤作業中は十分な換気を行ってください。

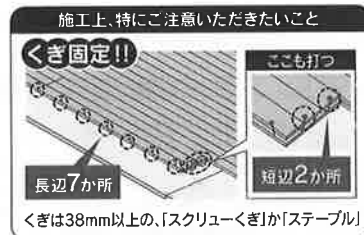
推奨接着剤	
裏面 (必須)	コニシ(株) KU928C-X 市販の一液型ウレタン樹脂系接着剤 市販の酢ビ系接着剤
サネ部 (推奨)	コニシ(株) KU928C-X

2) 釘打ち

① 長さ 38mm 以上のスクリーナー釘、またはステーブルを使います。釘頭はポンチ等で沈め打ちしてください。

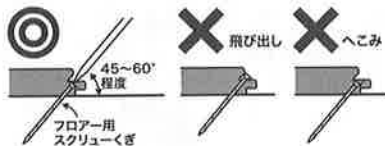
② 釘打ちは 45 ~ 50° 程度の角度で打ち込んでください。

③ 釘打ち機を使用する場合は雄サネ部を破壊しないようトルク調節を使用してください。



●頭の出すぎ、もくりすぎに注意する。

注意 壁際は3~5mm程度開けてください。



④ フィニッシュネイルは保持力が弱く、反り、床鳴り、目隙等の原因になるため使用しないでください。

4. 養生

① 施工後は傷や汚れを防ぐために、ビニールシート・発泡シート等の養生シートを敷きこんでください。さらに、その上にダンボールや合板を敷いて、十分に養生してください。ガムテープや両面テープを使用されると、床材表面のはがれや変色が起こる場合がありますので、必ず床用養生テープをご使用ください。

②養生テープは床用養生テープをご使用ください。

③養生中は雨水やペンキ等が養生シートにしみ込んで汚染が生ずる場合がありますのでご注意ください。濡れたり汚れたりした養生材は、直ちに張り替えてください。

④養生シートは必ず床全体を覆ってください。

床暖房施工要領

1. 下地組み

一般施工要領をご参照ください。

2. 床暖房パネルの施工

床暖房パネルの説明書に沿ってパネルを施工してください。

③根太上に 12mm 厚以上の合板を捨て張りし、その上に床暖房パネルを施工してください。

④床暖房パネルは必ず小根太付きパネルタイプを使用してください。

3. 仮並べ、張り込み

一般施工要領をご参照ください。

④床材の継ぎ目は必ず小根太(根太)上になるように施工してください。

4. 下地への固定

1) 接着

① 裏面への接着

踏み鳴り、浮き上がりを防ぐために、根太にウレタン系または酢ビ系接着剤を塗布して、床材の裏面と接着してください。

(合板下地の場合は、下地の根太位置に塗布して接着してください。根太レス工法の場合、303mm 間隔で接着剤を塗布してください。)

② サネ部の接着

雄サネ部の全長に接着剤を塗布して接着してください。

④継ぎ目からはみ出したり表面に浮き出した接着剤は湿った布ですぐに除去してください。

⑤作業中は十分な換気を行ってください。

⑥床材の伸び縮みを考慮し壁際には 2mm 程度の隙間を確保してください。

推奨接着剤	
裏面 (必須)	コニシ(株) KU928C-X
サネ部 (必須)	コニシ(株) KU928C-X

5. 養生

一般施工要領をご参照ください。

ご不明な点は、床暖房メーカーもしくは弊社スタッフへお尋ねください。

木質床材の特性について

はじめにご理解ください。

色バラツキ・節・入皮

節や色バラツキ・入皮などは製造段階で出にくいよう調整していますが、天然木を有効に使うため、若干、床材表面に発生する場合があります。あらかじめご理解ください。

虫食い

合板基材の床材は、ヒラタキクイムシ等の害虫により、表面に小さな穴ができることがあります。
※万一発生した場合は、処理専門業者にご相談ください。木質床材は製造工程で高温高圧処理され、虫や卵は死滅します。虫害は流通段階及び施工後に発生する可能性が高いと考えられます。

床鳴り

木は湿気を吸収し、放出する機能を持っていますが、それに伴う伸縮により接合部(実部)から音が発生することがあります。天然木としてやむを得ない現象です。また、施工など別の原因によって床鳴りが起こる場合もあります。

反り・突き上げ・目スキ

天然木を使用しているため、反り・突き上げが多少発生する場合があります。また、床材の伸縮作用により、床材の継ぎ目に目スキ(すき間)ができることがあります。天然木の性質上、ある程度やむを得ないものですので、ご理解ください。

カーペットや床マットをご使用の際、裏面材が溶着する場合がありますのでご注意ください。

シミ・色あせなどを防ぐために

水やアンモニアなどが床材の内部に浸透するとシミが生じるおそれがあります。床にごぼした場合は、すぐにふき取ってください。

(シミ・色あせの原因となるもの)

水、コーヒー、しょう油、薬品、カビ取り剤、毛染液、パーマ液、靴墨、ペットの排泄物など



観葉植物

鉢からもれる水分が床に染み込むと、シミ・干割れ・膨れなどのおそれがあります。深めの水受け皿を使用し、床に水がこぼれないようにしてください。



1 ベットの排泄物

ベットの排泄物を放置すると、シミ・変色の原因となります。すぐに拭き取ってください。ペット用のトイレの周辺にはマットなどを敷いておくこともおすすめです。



3 タバコ

火のついたタバコを落とした場合、すぐに取り除いてください。こげ跡がつくと取れません。タバコのヤニはアルコールを染み込ませた布などで拭き取ってください。



傷・へこみを防ぐために

傷/へこみは、家具によって集中的に力が加わったり、イスなどを引きずったりすると起こります。家具やイスの下には、マットなどを敷くと効果的です。

※キャスター対応の床であっても、傷がまったくつかないというわけではありません。

3 重量物

ピアノなどの重量物を置く場合は、根太や下地の補強をした上で、脚部に敷板やインシュレーター(血状のピアノ用台座)などを敷き、重量を分散させてください。また、移動させる時は引きずらないようにご注意ください。



4 車イス

同じ箇所への繰り返しのご使用や、車イスの材質・形状などの条件によっては、床表面に傷や汚れがつくことがあります。いつも通る箇所にはマットを敷くなどの対策をしてください。



干割れを防ぐために

干割れは、湿度や温度変化による床材の伸縮によって起こります。温風などを直接床に当てないようにし、床に水分がかからないようにしてください。

※耐干割れ対応の床であっても、干割れがまったく発生しないというわけではありません。

3 温風ヒーター

温風が床表面に直接当たらないようにしてください。冷蔵庫と同様に、マットを敷くなどして、干割れ予防をしてください。



4 直射日光

窓からの直射日光が長時間、床表面に当たると、日焼けや干割れのおそれがあります。カーテンなどで直射日光をできるだけ遮ってください。



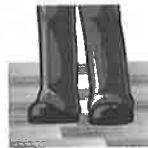
1 キャスター

耐キャスター性のない床の場合、キャスター付きのイスおよび家具のご使用はお避けください。ご使用の場合は、カーペットなどを敷いて床表面を保護してください。※キャスター対応の床であっても、傷がまったくつかないというわけではありません。



5 土足

上履き用ですので、土足のご使用はお避けください。靴に付着した砂がすり傷の原因になるおそれがあります。また土や泥が床に付着した状態で放置すると、シミの原因にもなります。



2 イスの足

イスを引いたりする時に、床表面を傷つけるおそれがあります。イスの足にゴムキャップやフェルトなどをつけると傷つきにくくなります。



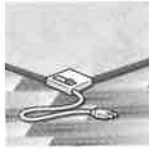
6 ベットの引っかき傷

ベットの爪で床表面を傷つける、引っかき傷が発生するおそれがあります。



1 電気カーペット

電気カーペットと床表面の間に断熱性のあるシートを敷くなどして熱をやりわけてください。なお、シートを敷いた場合でも干割れなどが起こるおそれがあります。



2 冷蔵庫

干割れの原因となりますので、冷蔵庫(特に大型タイプ)の熱風が床表面に直接当たらないよう、マットを敷くなどして対策をとってください。



5 雨水の吹き込み

窓や縁側などからの雨水の吹き込みにご注意ください。濡れたまま放置すると、干割れ・塗膜の白化・膨れなどの原因になります。すぐに拭き取ってください。



6 エアコン

エアコンや強制排気型の暖房装置などを連続運転する場合、加湿器などで湿度を調整してください。望ましい湿度は45~70%です。湿度調整が行われませんと、干割れ・目スキ・浮きなどが発生する場合があります。



毎日のお手入れ

基本は乾いた雑巾やモップでのから拭きです。

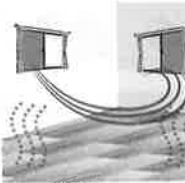


通常のお手入れは床表面の汚れを落とすから拭きで十分です。日常は、乾いたモップや雑巾でのから拭きで十分です。掃除機では取りにくいホコリなどが取れ、床の美しいツヤを保つことができます。
■化学モップはドライタイプをご使用ください。
■化学モップを長時間床に放置すると変色するおそれがあります。
■不織布タイプのフロアリング用ワイパーをご使用の場合、ワイパーの繊維や毛玉が付着することがあります。
■水拭きやスチームモップ、スチーム掃除機のご使用は、お避けください。

ひどい汚れの場合は、固く絞った雑巾などで拭き取りましょう。から拭きでは落ちない汚れは、雑巾を濡らし固く絞ってから、拭き取ります。また中性洗剤などは汚れに応じてご使用ください。
■雑巾を絞らずに水拭きすると、水分による干割れ・反り・膨れが生じる場合があります。
■中性洗剤を使用した場合は、洗剤成分をきれいに拭き取ってください。

上手なワックスがけの方法

床に美しいツヤを与え、傷・汚れから守ります。



①汚れを取り除きます。乾いたモップや雑巾で汚れを取り、乾いたモップで拭き取ります。ワックスがきれいに塗れない場合があります。ワックスがけの頻度は半年に一度が目安。天気の良い日に行ってください。
■ワックス剥離剤はご使用にならないでください。
■推奨ワックス「ハイテクフローリングコート」(リンレイ)

②水性樹脂ワックスを使用。水性樹脂ワックスは塗りやすく、乾くのも早いです。塗った後から拭きも不要です。手に塗ることがおすすめです。
■滑りによる転倒防止のため、ニス塗り木質床用・塗装木質床用と表示されたものをおすすめします。ロウタイプはご使用にならないでください。

③部屋の隅から、均一に塗る。木目に沿って、薄くムラなく塗ります。モップは毛足の短いタイプが塗りムラが出にくく、比較的きれいに仕上がります。
■直接床にワックスをまかないでください。
■塗布量はワックスの説明書に従ってください。
■床表面が十分に乾燥している状態でワックスを塗ってください。
■溝部にワックスが溜まらないようにご注意ください。

④完全に乾かします。乾く前に床の上を歩いたり家具を動かしたりすると、塗りムラができたり、ツヤがなくなったりします。ワックスが乾くまで、風通しをよくして待ちましょう。濡れた日の場合床の上を歩けるようになるまで、夏場で約30分、冬場で約50分を目安にしてください。

商品によってはワックスがけが不用のものがあります。(ワックスフリー対応商品) ワックスフリー対応商品にワックスがけしても差し支えありませんが、一部の性能が発揮できなくなる場合があります。